



自分を見つめる時が来る

世界にいろいろな課題を残したまま新しい年を迎えました。受験生にとってもいろいろな点で変わり目の年だといえるでしょう。そして大学入学共通テストと私立高校入試までわずか半月となりました。すでに総合型選抜の大学入試で合格を決めた人たちも何人かいて一足早く“おめでとう”ですが、入学後の学びの準備のため英検の勉強を始めた人もいます。頼もしいかぎりです。

さて先日、神田外語大でのスクールフェアで楽しい講演をしてくれたタカタ先生は「日本お笑い数学協会」の会長ですが、その副会長の横山明日希さんがネット上で「愛と数学の短歌コンテスト」を行っていました。そしてそれを編集した「恋の数学短歌集」を出版しています。これがなかなかおもしろい歌の数々で、例えば“途中式全部とばして答えだけ合わせるような台詞はやめて”という歌の下に「途中式は、より複雑な計算処理や論述をする際、その主張に誤りがないか判断するうえで大切なもの。それを省くとテストで減点されることもある。」というコメントがあります。また“13の次の素数は17と19の頃の恋のあとさき”という歌には「素数のもっとも魅力的な数字の集まり」という言葉が添えられています。

1とその数だけでしか割り切れないのが素数。23は素数ですが、2023は素数ではありません。7で割り切れます。中3が先日受けたVもぎで20までの素数を数える問題に1を素数としてしまった人と19を数え忘れてしまった人がいました。この塾には小学生から高校生までいますので11、13、17という素数の年齢の人たちが通っています。自分は誰なのかと考え始める11歳、自分が何者なのかと迷う13歳、そして自分の行くべき方向が少し見えてくる17歳。自分を見つめるというそのすべての節目に立ち会えるのが塾で教える楽しさであり、また責任の重さであると感じています。

私たちにとっては、それぞれの年齢に必要な学習内容に対してどう最適な指導を行えるかを模索する日々が続きます。同じ年齢であっても一人ひとりに大切なことは違うということも考えながら…。